

# 大型建機需要に沸く

## 県内機械部品メーカー

### 各国で資源開発加速

### 生産設備の増強急ぐ

県内の機械部品メーカーが、大型建機向けの需要に沸いている。鉄鉱石などの資源開発が世界規模で繰り広げられているため、各大手建機メーカーが増産を加速。部品を供給する県内メーカーでもフル生産が続いている。需要は今後も堅調に推移する見通しで、各社とも生産能力アップを急いでいる。

鋳鋼・鋳鉄部品製造の月、鋳造後の熱処理能力を現況の一割アップとなる月(氷見市下田子)は十一月焼鈍炉を稼働させる。本



十年度末には、生産能力を十八年度末比で七割向上させる方針だ。

佐藤泰樹社長は「コマツ全体の生産計画があり、何としても実現しなければならぬ」としている。

急ピッチでインフラ整備が進む中国などを中心に、世界的に資源需要が拡大。オーストラリアやインドネシア、ブラジルなどで、鉄鉱石や銅、ニッケルなどの資源開発が進み、建機需要は爆発的

コマツキャステックスが11月から稼働させる新しい焼鈍炉

て計三台とし、重さ十トを超える超大型バケットを月五個生産できる体制にした。

三月から生産を本格化させてきたが、コマツや日立建機からの受注が拡大。今後も積極的に設備投資を行い、来年中には月産十個の能力を確保する。

建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所(射水市鷺塚・小杉、今牧繁社長)は、建機用超大型バケットの増産を進める。今月初旬、本社工場に大型クレーン一基を増設し

輸送用機器製造の中善工業(富山市小黒・大沢野、中川達也社長)も、油圧シヨベル用の部品を日立建機から新たに受注した。従来は大型バケットを受注していたが、輸送用機器製造で培った高度な多層盛り溶接技術が評価された。十一月から

量産体制に入る。建機需要は今後も拡大が確実で、関連する県内メーカーにとっては、生産能力の増強が業容拡大の鍵を握っているといえそう。